

R 3 年度 モコ掛川・宮脇保育園 園評価

保護者アンケートより

年度当初より気になっていた駐車場の事が、保護者アンケートでも何件かご意見としていただいた。ご近所への配慮や園児の安全も考えるとやはり早急に解決していかなければいけないと感じた。来年度駐車場の舗装工事を行うことが解決策の一つではあるが、台数の少なさに関しては解決が難しいのが現状である。スムーズな送迎を保護者に意識してもらったり、一方通行を確実に守ってもらえるようにアナウンスを行っていかねばいけない。

保育に関しては概ね高評価をいただけたと感じる。開園 1 年のまだまだ課題が多い中で、職員の努力と丁寧な対応で「足りないもの」を補ってこれたのではないかと思う。

今後の課題として一つ目に保護者とのコミュニケーションの持ち方がある。毎日のコドモンによる配信で写真を送ったり、子どもの姿はわかりやすく伝えることはできるが、保護者の悩みに添い思いを汲んで…という交換日記的な温かみのあるコミュニケーションは現在できていないと思う。早番・遅番保育にかかる子ども達の保護者は担任と話すこともなかなか難しく、日々の子育ての悩みを吐き出せずにいることもあったのであろうとアンケートから感じた。保護者が気軽に悩みを相談できたり、子ども達の姿を共有できる温かいコミュニケーションの方法を探していきたい。

二つ目に、法人全体の理念でもある「ひとりひとり」についても追及して考えていきたい。個々に応じた保育とは…何を大切にしていくのか… 保育士が一生懸命伝えようとしても言葉が足りなかったら、保護者には伝わらない。それぞれの歳児に合わせた「ひとりひとり」を再度保育士が見つめ、保育に反映させていきたいと考える。

最後に本年度、外国籍の園児を受け入れた。保護者も日本語を話すことが難しく、伝えることの困難さを感じた。おたより等も「伝わらないから…」と簡単に伝えるのみになってしまったこともあった。アンケートの感想から、国籍は違っても子どもを思う気持ちは変わらず、しかも言葉が通じない不安な状況が苦しかったらうということが感じられ、伝えよう（おたよりの英訳等）と園として努力することが必要であったと反省した。可能な限りどんな状況であっても「子育て」を支えていく使命を果たせるよう、来年度努力していきたい。

職員評価より

「園の目指す保育」に関しては理念や保育目標を「言葉」として理解していることに重きが置かれてしまい、もっと保育の細かい事項（対応であったり、視点であったり、発達であったり…）に目が向けられていないと感じることもあった。新しく集まった職員なので、まだまだここからの「保育観」の擦り合わせが今後のモコの保育の肝になってくると考える。「わかっている」「こうであるべき」と経験値からの感覚で保育をしていくことで中身が薄くなり、保育士のやりやすい保育となってしまうだろう。今後課題になってくるであろう少しのズレをその都度その都度話し合い、チームみんなで解決していくことでより結束や信頼が深まり、質の高い保育ができるのではないかと思う。

来年度はリーダーだけでなく、職員全体で「学ぶ」という風土づくりを作っていきたい。経験年数ごとに研修会を作り、自ら学び切磋琢磨できる職員組織につながればうれしい。

園総合評価

話し合い、意見の出し合い…ただただそれだけを丁寧に職員間でコミュニケーションをとってきた 1 年であった。トップダウンにはしたくない、「風土」を大切に！開園前からリーダーの先生にうるさいほどに伝えてきたことを本当に頑張って新入職職員にも伝えてくれ、予測していた以上に保育士がチームとしてまとまり、保育に臨めたのではないかと思う。コドモンの有効利用は仕事の効率化にかなり役に立っていると感じる。上記に記載した「温かさ」は課題となってしまうが、園内外から写真付きの連絡ノートの高評価については耳に入る。まだまだ内容については吟味が必要であるし、「保育士」としての専門性が生かせるような内容にしていきたいと思うが、今年度の成果としては上々であると思う。

今後本園は若い職員が多いため、保護者対応や保護者支援が課題となってくる。子育ての悩みや対応には、伝える力も必要になってくる。難しい対応に対して園長・主任だけが気にすればよい風潮は作らず、みんなで支えていけるような体制を作っていきたいと考える。